# 貝合わせの儀、司式者（司会者）のコメントと動き

【司式者】 それではここで古式ゆかしい雅が蘇る「貝合わせの儀」を執り行います。貝合わせは元々は貝そのものの美しさを競う遊びでした。平安時代の後期になると貝の内側に大和絵や花鳥を彩色して描き、一対の貝殻を当てる遊びになりました。蛤の貝殻の一対は決して他の貝殻と合うことはありません。

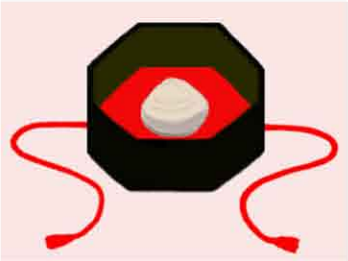
【司式者】 ご新郎ご新婦様はそれぞれの貝をお取りください。

◆ 新郎は平安装束男性の絵柄の貝を
新婦は平安装束女性の絵柄の貝を飾り台より取って列席者の皆様にご覧いただく。

【司式者】 二つの貝殻を一つに合わせていただきます。

◆ 新郎新婦は向い合って貝殻を合わせる。

【司式者】 ここに二つの貝殻は一対の貝として結ばれました。

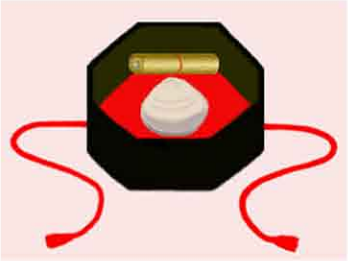


【司式者】 ご新郎様は一対となった貝を貝桶の中に納めてください。

◆ 新郎は貝桶の中に貝を納める。

【司式者】 引き続きましてお二人に誓いの言葉を述べていただきます。

◆ 新郎が巻物（誓いの言葉）を広げて巻物の両端を二人で持って朗読、読み終わった後は巻き戻す。



【司式者】 ご新婦様は誓いの言葉を貝桶の中に納めてください。

◆ 新婦は貝桶の中に巻物（誓いの言葉）を納める。

【司式者】 貝を納める貝桶は吉兆のしるし八角形をしています。江戸時代に夫婦が添い遂げる縁起物として婚礼調度の中でも最も重要な意を持つようになり、嫁入り行列の先頭をきって婚家に入りご新婦側からご新郎様側に貝桶渡しの儀式として引き渡されました。
ご新郎様、お二人の永遠の誓いの証として貝桶の蓋を閉めて朱色紐でお結びください。

◆ 新郎、貝桶の蓋を閉めて紐を結ぶ。

【司式者】 ここにお二人の誓いが結ばれました。おめでとうございます。

◆ 新郎新婦、一礼　　（拍手）